

森づくりの理念と技術

岐阜県立森林文化アカデミー

横井 秀一

●森づくりに大切なこと

森づくりに、いくつもの大切なことがあります。大局的にみると、それは理念と技術に集約できるでしょう。かの本田宗一郎氏が「理念・哲学なき行動(技術)は凶器であり、行動(技術)なき理念は無価値である」と述べていますが、それは森づくりにもそのまま当てはまる言葉です。

我が国をみると、崇高な理念・哲学を持ち、それを実現させるための技術を駆使する(行動する)林業経営者や林業技術者は、たくさんいます。こうした人がつくる森は美しく、また、活力が感じられます(写真1、2)。その一方で、この森をどうしたいんだろうとか、なぜこんなことをしたんだろうとか、いくつもの?が浮かぶ残念な森もあります(写真3、4)。そこからは、森づくりの理念が読みとれません。もしかしたら、理念はちゃんとあったのだけど、それを具現化する技術を持ち合わせていなかったのかもしれない。残念な森を見ると、改めて、森づくりに、は理念と技術の双方が大切だということを思わずにいられません。

海外に目を転じると、近頃、北欧のフォレスターがよく話題になります。ドイツやスイスなどでは、森づくりの現場の中心にフォレスターがいます。彼らのすばらしさは、正に、理念・哲学を持ち、科学と経験に裏打ちされた技術を持ち、それらを活かした森づくりを実践しているところにあります。日本の林業技術者もこれを見習うべきだ、というところでしょう。しかし、今の日本には、北欧のフォレスターの仕事に相当する職域がありません。したがって、彼らと同じ役割を日本の林業技術者に求めることはできません。今年度から、日本でもフォレスターを認定する試験が始まりますが、それ(日本型フォレスター)は、北欧のフォレスターとは本質的な部分で異なります。



▲写真1



▲写真2

●森づくりの姿勢と資質を身につける

私たちが見習うべきところは、北欧のフォレスターの姿勢と資質です。しかしそれは、「彼らが持っているんだから、日本の林業技術者もそれを持ちなさい」ということではありません。その姿勢と資質は、本来、森づくりにかかわる全ての者が身につけていて然るべきものだから



▲写真3

らです。それは、林業経営者、民間林業事業者、森林組合、国・都道府県・市町村の職員、現場の作業を担う技術者、林業コンサルタントなど、職域によって比重(理念に重きを置くのか、技術に重きを置くのか)は異なりますが、誰もが持たなければなりません。とくに、林業の推進役としての期待が高い林業普及指導員(将来的には日本型フォレスター)と施業プランナーがそれを身につけることが喫緊の課題です。

職域の壁を超え、相通じる理念・哲学を持ち、それを具現化する技術を共有し、それぞれが必要とされる行動をとること、この当たり前のことがこれからの森づくりに強く求められます。それを実現するには、教育や啓蒙が必要です。アカデミーは、その一端を担っています。専修教育部門では、エンジニア科の全員とクリエイター科林業再生講座の学生を対象に、まずは森づくりのイロハから、そしてより高度な考え方と応用技へと、2年間をかけて教育しています。技術研修部門では、プランナー研修を通して林業の現場ですでに活躍している技術者を対象に、森づくりの理念とそれを実現するための技術の大切さを説いています。



▲写真4

●詳しい内容を知りたい方は

TEL(0575)35-2525 森林文化アカデミー まで